

一人ひとりが尊重される 多様な学び場とは？

どなたでも
参加
できます

～ひよこの家の15年から見える教育の未来～

日時：平成30年6月16日（土）13:30-16:30（開場13:00）

基調講演：喜多^き明^あ人氏（早稲田大学文学学術院・文化構想学部教授）

「不登校の子どもの支援のあり方を考える

—普通教育機会確保法の成立をふまえて—

シンポジウム：「子どもの声が聴こえますか？

～ オール高根沢で支えるには ～」

場所：高根沢町 町民ホール（高根沢町石末1825）



不登校の子ども達の居場所「フリースペースひよこの家」の設置から15年になります。学校に行けない不登校の子ども達が抱える問題に寄り添い、“子ども第一”の立場から活動を続けてきた「ひよこの家」。その取り組みを振り返るシンポジウムを開催し、これからの支援のあり方を広い視野で考えます。（プログラムなど詳細は裏面です）

参加費無料・申込み不要

お問合せ先：高根沢町生涯学習課 028-675-3175

こころの探検講演会・シンポジウム 詳細

昨年2月、不登校の子どもたちに教育を受ける機会を確保することを、国や自治体の責務とした法律（普通教育機会確保法）が制定されました。高根沢町ではフリースペースひよこの家で、全国に先駆け15年前からこの理念を先取りして子どもたちを支援しています。前半の講演では、この法律で子ども達への支援のあり方がどう変わるのか、残された課題は何なのかといった視点から、法律の制定にも関わった喜多先生より、掘り下げたお話をいただきます。

また後半は、喜多先生・加藤公博高根沢町長・小堀康典教育長に加えて、高根沢町で長年子どもたちの支援に現場で関わってきた方々、更に、「ひよこの家」を巣立った卒業生をまじえてのシンポジウムです。支援を受ける側、支える側、さらには制度をつくる側から見てきたことを率直に語り合ってください、今後の支援のあり方、学校外の教育の未来のかたちを探ります。

登壇者

喜多明人氏

プロフィール

1949年、東京都生まれ。子どもの支援と街づくりを専門とし、長く教職課程を担当。学術と社会活動の両面から、一貫して子ども支援を推進している。

著書「子どもの権利-次世代につなぐ」(2015)など多数。



加藤公博町長

プロフィール

1959年栃木県生まれ。大学卒業後、栃木銀行に入行。支店長を歴任後退職。

2008年から約2年間高根沢町教育長、その後約2年半高根沢町副町長を歴任。

2013年から高根沢町町長。現在2期目。

小堀康典教育長

プロフィール

1954年栃木県生まれ。

塩谷町立船生西小学校から教員生活が始まり、教諭が18年、教頭が6年、校長が7年の計31年間小学校に勤務。

2015年から高根沢町教育長となり、現在2期目。

中野謙作氏

プロフィール

1959年東京生まれ。1994年に高根沢町で学習塾を開塾。不登校支援から始まった活動はひきこもり、いじめ、非行、ニート支援と広がり、2010年一般社団法人栃木県若年者支援機構を設立。子ども若者の相談から進学、就労までの総合的な支援を構築。現在、栃木県若年者支援機構代表理事、高根沢町教育委員会教育委員。ひよこの家は開設時から協力を続けている。

芳村寿美子氏

プロフィール

学生のときイギリスの「フリースクールサマーヒル」と出会い世界の学校の多様な学びに興味をもつ。3年間の小学校教員を経て、世界のフリースクールの現状を知るためアメリカに1年間滞在。帰国後学習塾をしながら教育NPOで不登校、非行、いじめなどの問題と取り組む方々の中間支援活動をする。2003年、高根沢町での「こころの探検シンポジウム」に実行委員として参加し、2003年9月開設のフリースペース「ひよこの家」でボランティアとして、2004年からは教育相談員として不登校の子どもたちの支援に携わり、現在に至る。

プログラム

13:30開会

挨拶

13:40-15:00

基調講演 喜多明人氏

「不登校の子どもたちの支援のあり方を考える

—普通教育機会確保法の成立をふまえて—

15:10-16:20 シンポジウム

「子どもの声が聴こえますか？

～ オール高根沢で支えるには ～」

- 喜多明人氏
- 加藤公博 高根沢町長
- 小堀康典 高根沢町教育委員会教育長
- 中野謙作氏（栃木県若年者支援機構 理事長）
- 芳村寿美子氏（フリースペースひよこの家 教育相談員）
- ひよこの家 卒業生

16:20-16:30 質疑応答

16:30終了

ロビーでは…

- 実行委員によるミニ相談コーナー
- 県内フリースクール・サポート校の紹介展示
- ひよこの家の紹介展示、他があります